◎ Pの存在領域

Pが $\overrightarrow{OP}=s\overrightarrow{OA}+t\overrightarrow{OB}$（$\overrightarrow{OA}$と$\overrightarrow{OB}$は1次独立）を満たすとき、

s,tが任意の実数値をとれば、Pは平面上の任意の位置に

存在できる。

$\overrightarrow{OA},\overrightarrow{OB}$を利用して、新しく$s$軸，$t$軸（斜交座標）を設定すれば、

点(s,t)は、直交座標（xy平面上）の点(x,y)と同じように

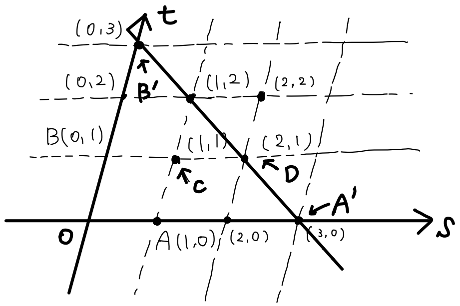
扱える。

◇斜交座標

Pが $\overrightarrow{OP}=s\overrightarrow{OA}+t\overrightarrow{OB}$（$\overrightarrow{OA}$と$\overrightarrow{OB}$は1次独立）を満たすとき、

直線OAの$\overrightarrow{OA}$の正の向きにs軸を、直線OBの$\overrightarrow{OB}$の正の向きに

t軸を下図のようにとる。



例えば、$(s,t)=(1,1)$のとき、PはCに一致し、

$(s,t)=(2,1)$のとき、PはDに一致する。

また、$s+t=3$のとき、Pは直線A′B′上にある。

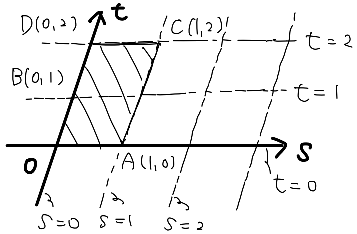
(例)（斜交座標を利用）

Pが $\overrightarrow{OP}=s\overrightarrow{OA}+t\overrightarrow{OB}$（$\overrightarrow{OA}$と$\overrightarrow{OB}$は1次独立）を満たす。

直線OAの$\overrightarrow{OA}$の正の向きにs軸を、直線OBの$\overrightarrow{OB}$の正の向きに

t軸を図のようにとり、A(1,0)，B(0,1)とする。

(1) $0\leqq s\leqq 1,\ 0\leqq t\leqq 2$



C(1,2)，D(0,2)とすると、

Pの存在領域は、

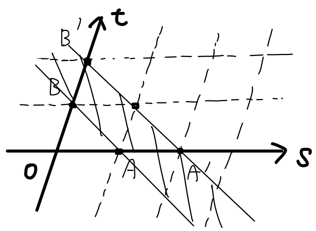
平行四辺形OACDの内部および周上

であり、左図の斜線部。

コメント　$0\leqq s\leqq 1,\ 0\leqq t\leqq 2$は、直交座標（$xy$平面）での

$0\leqq x\leqq 1,\ 0\leqq y\leqq 2$（長方形）をイメージすると分かりやすい。

(2) $1\leqq s+t\leqq 2$



A′(2,0)，B′(0,2)とすると、

Pの存在領域は、

2直線AB，A′B′およびその2直線に

はさまれる領域であり、左図の斜線部。